

文科省の阿蘇企画官が資料 9-1 (COPUOS 開催結果) を 6 分余で説明した後、13 分程の質疑応答があった。(米国が行った衛星の破壊に関する短い確認(否定的コメントなし)の他、SPIDER(災害管理・即時対応のための宇宙情報国連プラットフォーム)が APRSAF などの活動と重複しているのではないかとの議論、国連で言う平和利用とはノン・ミリタリーではないかとする外的議論、航法システムの国連での扱いに関する質問などが有った。)

青江: 実は、先週一寸忘れちゃったんだけど、アメリカの衛星破壊について、各国からはシュイ(?)的なコメントは為されなかった。中国からも何の発言も無かったんですね。

文科省 阿蘇: はい、御座いませんでした。

青江: もう一件は SPIDER ってやつですけどですネエ、其の既存の災害管理プロジェクトとの重複は、まあ、基本的には避けましょと、云う事ですよ。

文科省 阿蘇: はい。

青江: ですから、我が国は今迄、まあ、APRSAF、センチネル・アジアで此処でやって来て居る。だから其れは其れでキチンとその枠組みの中で、従来続けて来ている活動はちゃんとやれば宜しいと、

文科省 阿蘇: はい。

青江: 云う此れを軸にして、キチンとやるべき事をやって行くと。まあ、其れとの関連で災害チャーターと絡んで居る訳ですからですね。其の従来の枠組みで以て、キチンとやるべき事

をやってけば、宜しいんじゃないかと云う風に思っているんですけども、そう云うラインで理解しとって良いかどうか、今どう考えてるのかと云う事なんですけれどもね。各国もそう云う理解で受け止めて居ると云う風に、その様に理解して良いかどうかと云う事なんですけれどもね。

文科省 阿蘇: その件につきましては、国連宇宙部の方からですね、事務局の方からはですね、既存プロジェクトとの重複は無いんだと云うご説明御座いましたけれども、次回 COPUOS の本委員会迄に、其方の重複、既存プロジェクトとの整理をして報告すると言う旨御座いましたので、其方の整理が事務局の方で為されると云う風に考えて居ります。また、其れに対して、我が国からも事務局に意見照会、或いは情報をインプットすると言う事で、働きかけを行っていきたく思っています。またあの、各国とも、予算の面、特にフランスなどは国際災害チャーターとの重複、懸念して居りまして、其方の方についても各国から情報収集をしつつ対応して行きたいと考えて居ります。

青江: はい。まああの、そう云うラインで、キチンと言うべき事はキチンと言って、今迄やってきた活動を充実させて行くと云う事で宜しい¹んじゃないかと思いたすがね。

¹ 其れが正論だと思うが、SPIDER に熱心な国の思惑を考える必要があると思われる。中国は半世紀前の「覇権」に近い考え方をしている事が想像出来るが、ドイツはどんな基本理念に基づいているのだろうか。中国は、日本の影響力を高める動き全てに反対すると思われる。

文科省 阿蘇: はい。

森尾: 済みません、一寸質問なんですけど、衛星航法システム、国際的なものって今どう云う状況にあって、日本は其れにどう云う風な貢献が出来そうな状況なんですか。

文科省 阿蘇: 此方の参考資料の方なんですけれども、今回は衛星航法システムについて各国の報告が行われたんですけども、済みません、具体的な状況については調査致します。我が国からは準天頂衛星システムと、運輸多目的衛星航法の作業システムの報告を行いましたけれども、一寸済みません、具体的な処は又。

文科省 中川: 準天頂と衛星航法の方は、今回準備会合と云う事で、一応出て説明聞いて、新たな、何か、こう、枠組みとかそう云う話は特に御座いません。

池上: 要するに国連宇宙空間平和利用って云ってますよね。で、平和利用と言ってるにも拘らず、米国衛星の破壊の件について殆ど意見が無かった²。此れロビーでは何か話題にな

² 国連で宇宙法を制定する時に議論があり、大勢は平和利用を非侵略と解釈したが、ソ連、日本など少数が非軍事と解釈し、未だに統一見解に至ってない。此れは先日散会した計画部会で慶應大学の青木先生が講義していた事である。稼働中の他国の衛星を破壊するのは侵略であるから、当然非難が集中する。中国はその能力がある事を誇示するために自国の衛星を破壊したと解釈され、各国の非難を浴びた。米国はその様な訓練の必要が無く、落下する衛星からの被害を食い止めようとしてミサイルで破壊したと解釈され、非難の声が上がらなかったのである。

っていたんですか。此処で言ってる平和利用って云うのは交通事故を防ぐようなイメージ、

文科省 阿蘇: あの一、此方のスペース・デブリとも関係するんですけども、昨年決議されたスペース・デブリでですね、スペース・デブリをなるべく発生させないと云う事で、去年は例えば1月に中国の衛星破壊実験が行われたものですから、これと関連して各国ともかなり発言があったんですけども、今回は低軌道で行って、殆ど数時間のうちに99%のデブリが地上に落ちて来ると云う様なテクニカル・プレゼンテーションもNASAの担当者から行われまして、其れに対してロビーでも何かあったと云う事では御座いません。

池上: 此処で言ってる平和って云うのはミリタリーに対する平和と云うよりはもう一寸広い意味で使われてる³訳ですね。

(暫く無言)

池上: 一寸、其れ、今は、直ぐはお答え出来なくて結構なんですけど、此れ平和って云いますとすぐミリタリー的なイメージが対立概念として出て来そうなんですけれども、やっぱり、世の中で平和って言葉を使った場合には、必ずしもミリタリーと云う狭い範囲の話では無いなと、こう云う事だと思ふ。

(暫く無言)

松尾: カグヤ(?) ってるとは思えないんだけど。

³ 何を根拠に此の様な推定が出来るのか、全く理解できない。衛星を破壊した技術は、非常時に敵国の監視衛星を破壊する技術と同じものである。道路を塞ぐ大岩を取り除くのに爆薬を使う事との間に、何か共通点を感じたのだろうか。

池上: いやいや、つまりあの、平和って言いますとね、通常国連で平和の話になると、例えば、国と国の戦争的なものがバックに有って、国と国のいさかいの様なものがバックに有ってと云うイメージも一つ出て来る訳ですよ。で、其れとは此れ一寸違うって云う事なんですね。

(暫く無言)

誰か: シビルユース

池上: シビルユースなんでしょうね。ミリタリーについては外して⁴、あくまでも国連。

(大勢がマイクなしで一斉発言)

森尾: (マイクなしの為、会場では聞こえなかったが、) ノン・ミリタリーではなくて、ノンアグレッシブなんです。

池上: ノンアグレッシブって云うイメージなんですか。シビルユースって云う風に私は。ああ、成程ね。あの、ちょっと難しい質問をしてすいませんでした。

松尾: SPIDER の話ね。あんまり重複は無いんだと云う大体のお話ですけども、其処で言ってる事は SPIDER 自身は内実のあるプロジェクトは持たなくて、専ら今走っている具体的

⁴ 何故外れると感ずるのか分らない。国連の関心事は内戦の抑制にまで広がっているが、重大な関心事は侵略の阻止である。宇宙に限ると、宇宙を利用する技術を有する国に、宇宙を独占的に使われる事を阻止するのが最大の関心事である。「平和利用」の定義は曖昧な儘であるが、軍事施設設置の禁止や大量破壊兵器設置の禁止など、明確に定めた項目は軍事行動に関連するものが多い。

なイニシアチブの連携をとるのを旨としていると云う意味なのか、それとも既存のイニシアティブでカバーされて無いところをカバーするんですよと云う意味なのか、その辺はどう云う事なんですか。

文科省 阿蘇: 未だ、具体的な活動についてはまだ計画だけがあって、具体的にどのような活動を行って、どの様に進めて行くのかと云う事については未だ決まっていないうんですけども、あのー、少なくともこの SPIDER 自身が独自の衛星を持って情報を配信すると云う事では御座いません。また、途上国に対して此の宇宙からの災害監視の有用性と云うものの普及啓発活動とか、そう云う様なものも盛り込まれて居りますので、意識の向上とか、其方の方の整理なのかナアと考えて居りますけれども、まだ具体的には決まて居りませんので、また情報収集して行きたいと思て居ります。

青江: 今、国際チャーターがあって、そして其れの一環の様な形で、APRSAF、センチネル・アジアと云うものが動き出して、それから他のヨーロッパの国のあれも災害チャーターの下での活動と云うのが一定有る訳ですね。ですから、其の現実からして、ホントに何が加えて必要なのかと云う処が実の処良く分らないんですよ。

松尾: (マイクを通さないで) その辺が各国の対応に表れてる訳でしょう。

青江: と云う事だと思んですよ。で、其れに代わるって云うかオーバーライドして何か良い枠組みを作った方が良いのかどうなのかと云うのも良く分らない。と云う状況の中で、まあ、

災害チャーターに入っていないドイツと、中国はどうでした？

文科省 阿蘇:中国は災害チャーター入ってます。

青江:入って居るんですけどね。まあ、あの一、其の中国と。それで事務所をって、本当に何をやろうと、世界の為に何をやろうとしているのか、どうも理解できない⁵と。ホーで、何か、こう、二つの仕組みが世界の中で両立している様な状況と云うのは、多分好ましいとは思えないんですよ。もう少しちゃんと、此方側の保険のカツ(?)ホントはもっと日本含めてホント何をやるんですか、今の現状下では何を補っていかなくやいかんのかって言いますか、何を变えて行かなくやいかんのか、其処をはっきりさせて貰わないと、どうも対応の考えようが無いと言いますかね。良く聞いて見て下さいと。まあ、其れを其の儘ズルズルと、此処の設置まで認めさせとるの、変な話だと思えますけどね。其れはもっと前にチャンと言わなくやいかんかったのかも知れません⁶ね。

池上:今の此れ、中国に事務所を作ったってのは今回決定したって云うより、前からそう云うような計画があつてと云う事なんですか。

文科省 阿蘇:はい、計画自身につきましては2006年に。

⁵ 中国やドイツが「世界に貢献したい。」と思って発言していると言う前提を置くので、理解出来なくなるのだろう。ドイツの意図を推測する材料は乏しいが、中国は半世紀古い「覇権」に類する意図を持っているのだと想像する。

⁶ 後になれば分って来る事は多々有るので、「もっと前に」は不要ではないか。

池上:既にそう云う予定に入ってた訳ね。それと、今の話は、一体何をやるかって云う事について良く分かりませんね。此の事務局。

青江:まあ、場合によってはですね。此れはもう、反対した方が良いかと。まあ、自分の金でやるんだからどうぞと、国連の全体予算に加わらないんだから、まあ、自分の出したお金でおやりになるんだからどうぞと、云った程度でやって来た、少し反省せんといかんかったのかも知れないですね。

池上:で、今回は予算を取ろうとしてる訳ですね。今。

青江:ウーン。

松尾:SPIDER 自身が言い出されたのはもっと古いんでしょ。

文科省 阿蘇:あの一。そもそもウィーン宣言の流れから来ておまして、其のアクションチームで、何かこう云う国際的な災害監視システムを作るべきではないかと云う提言が行われまして、その提言を基に今回2006年にSPIDER設置が決まったと云う事になって居ります。

松尾:SPIDERの設置が決まったのは2006年ですか。延元(えんげん)迎れば相当古い？

青江:千九百何年かの？

文科省 阿蘇:1999年からの話です。

松尾:だから其方が、まあ、愚図愚図してる内に、災害チャーターとか、APRSAFのセンチネル・アジアとか、実質の有る話が既に走ってしまつてると云うのが今の状況だと思うんですね。だから、まあこのSPIDERの方も状況を整理されると云うお話なので、其れを是非見守っていきたいと思います。

文科省 中川:先程の、あの一、若干正確に申し上げます。参考の処の 4. の個別議事概要の(8)に衛星航法システムと書いて御座います。これは、此の宇宙空間平和利用委員会の科学技術小委員会の中で、こう云ったりリモートセンシングだ、スペース・デブリだ、こう云うものに並んで、今回衛星航法システムと云うのが、新規議題になったと。これは親の委員会と云うか小委員会であったと。云う事で、こうなったので日本で言えば、準天頂衛星システムとか、運輸省の MSAS の話を紹介し、其処についての活動報告が行われたと、こう云う事が今回初めて行なわれた事で御座います。それから、一方、頁の一番最後にこう云う一連の委員会と並行して、此の ICG の会合が本年 12 月に開催予定なんで御座いますが、その準備会合も並行して開かれましたと云う事で御座います。一寸補足致します。

松尾:宜しゅう御座いますか。それでは二つ目の議題に移りたいと思います。